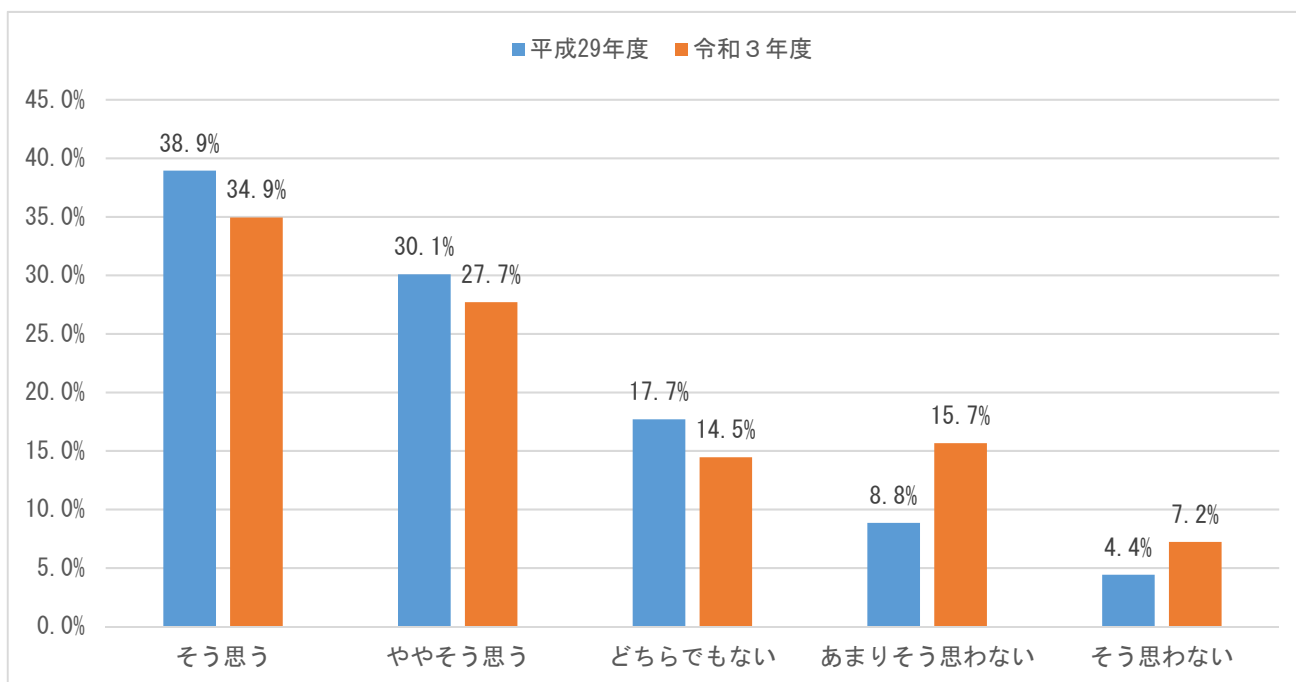


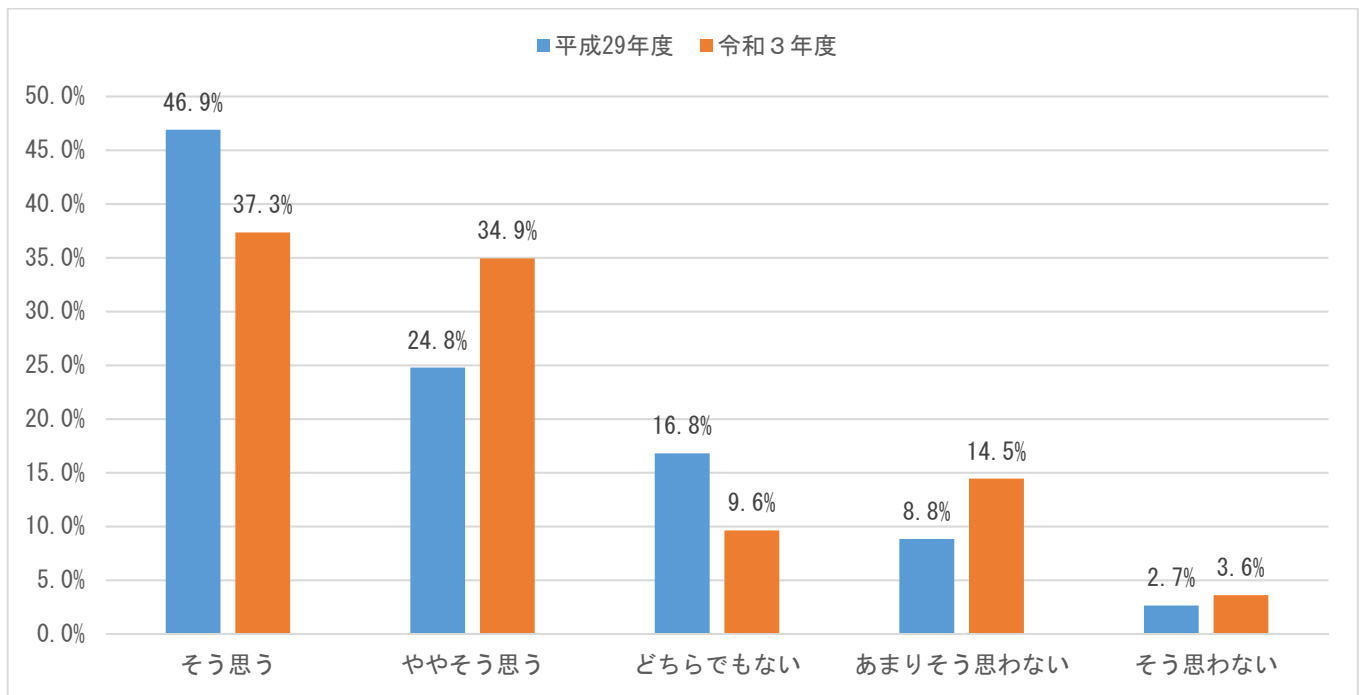
e. 事業で得た国際的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。

平成29年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際青年育成交流事業	3 (名)	2 (名)	2 (名)	2 (名)	0 (名)	9 (名)
	33.3%	22.2%	22.2%	22.2%	0.0%	100%
日本・中国青年親善交流事業	2 (名)	0 (名)	1 (名)	1 (名)	0 (名)	4 (名)
	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	1 (名)	3 (名)	1 (名)	2 (名)	1 (名)	8 (名)
	12.5%	37.5%	12.5%	25.0%	12.5%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	2 (名)	2 (名)	1 (名)	0 (名)	1 (名)	6 (名)
	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	100%
「東南アジア青年の船」事業	7 (名)	13 (名)	5 (名)	0 (名)	0 (名)	25 (名)
	28.0%	52.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
「世界青年の船」事業	29 (名)	14 (名)	10 (名)	5 (名)	3 (名)	61 (名)
	47.5%	23.0%	16.4%	8.2%	4.9%	100%
合計	44 (名)	34 (名)	20 (名)	10 (名)	5 (名)	113 (名)
	38.9%	30.1%	17.7%	8.8%	4.4%	100%
令和3年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際社会青年育成事業 (オンライン)	3 (名)	3 (名)	4 (名)	5 (名)	3 (名)	18 (名)
	16.7%	16.7%	22.2%	27.8%	16.7%	100%
日本・中国青年親善交流事業 (オンライン)	9 (名)	4 (名)	2 (名)	2 (名)	0 (名)	17 (名)
	52.9%	23.5%	11.8%	11.8%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業 (オンライン)	3 (名)	2 (名)	0 (名)	1 (名)	0 (名)	6 (名)
	50.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」青年会議 (オンライン)	6 (名)	6 (名)	2 (名)	3 (名)	0 (名)	17 (名)
	35.3%	35.3%	11.8%	17.6%	0.0%	100%
「世界青年の船」事業 (オンライン)	8 (名)	8 (名)	4 (名)	2 (名)	3 (名)	25 (名)
	32.0%	32.0%	16.0%	8.0%	12.0%	100%
合計	29 (名)	23 (名)	12 (名)	13 (名)	6 (名)	83 (名)
	34.9%	27.7%	14.5%	15.7%	7.2%	100%



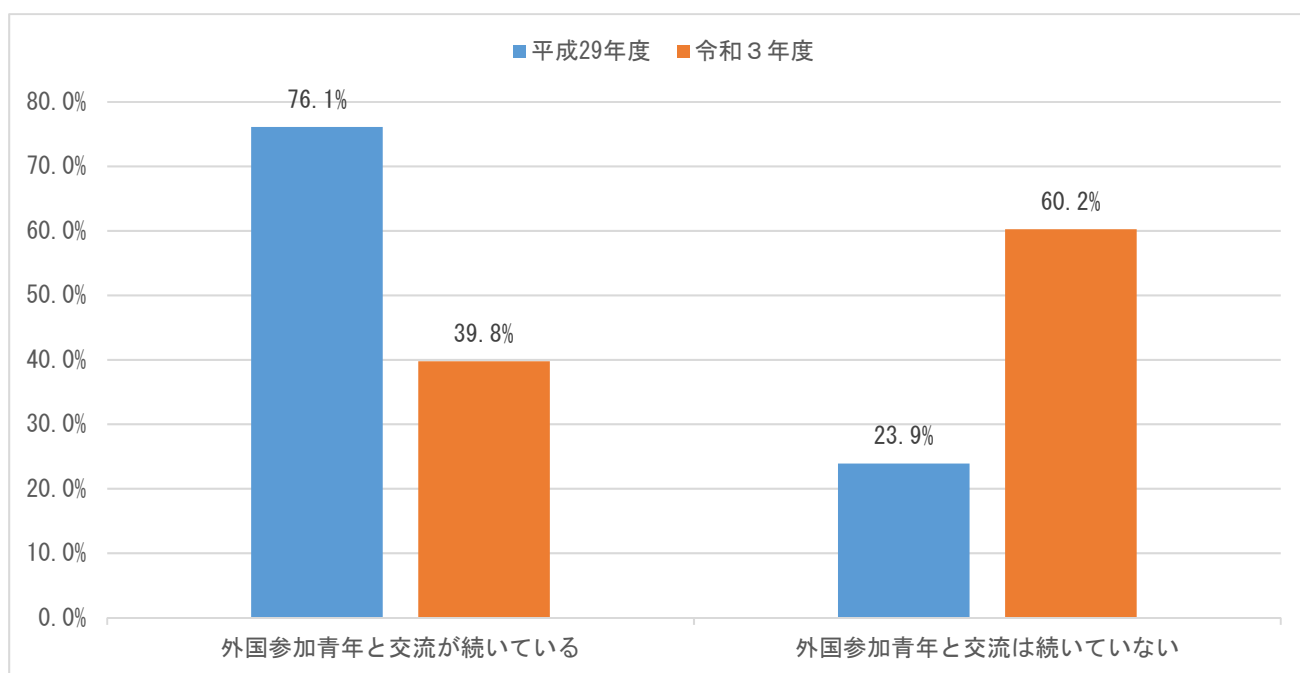
f. 事業で得た国内の人的ネットワークが自分のキャリア形成を行う際に役立っている。

平成29年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際青年育成交流事業	2 (名)	3 (名)	2 (名)	2 (名)	0 (名)	9 (名)
	22.2%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%	100%
日本・中国青年親善交流事業	3 (名)	0 (名)	0 (名)	1 (名)	0 (名)	4 (名)
	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	1 (名)	2 (名)	3 (名)	1 (名)	1 (名)	8 (名)
	12.5%	25.0%	37.5%	12.5%	12.5%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	4 (名)	2 (名)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	6 (名)
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」事業	11 (名)	7 (名)	5 (名)	2 (名)	0 (名)	25 (名)
	44.0%	28.0%	20.0%	8.0%	0.0%	100%
「世界青年の船」事業	32 (名)	14 (名)	9 (名)	4 (名)	2 (名)	61 (名)
	52.5%	23.0%	14.8%	6.6%	3.3%	100%
合計	53 (名)	28 (名)	19 (名)	10 (名)	3 (名)	113 (名)
	46.9%	24.8%	16.8%	8.8%	2.7%	100%
令和3年度	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
国際社会青年育成事業 (オンライン)	3 (名)	6 (名)	1 (名)	5 (名)	3 (名)	18 (名)
	16.7%	33.3%	5.6%	27.8%	16.7%	100%
日本・中国青年親善交流事業 (オンライン)	5 (名)	9 (名)	2 (名)	1 (名)	0 (名)	17 (名)
	29.4%	52.9%	11.8%	5.9%	0.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業 (オンライン)	2 (名)	3 (名)	0 (名)	1 (名)	0 (名)	6 (名)
	33.3%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」青年会議 (オンライン)	5 (名)	4 (名)	4 (名)	4 (名)	0 (名)	17 (名)
	29.4%	23.5%	23.5%	23.5%	0.0%	100%
「世界青年の船」事業 (オンライン)	16 (名)	7 (名)	1 (名)	1 (名)	0 (名)	25 (名)
	64.0%	28.0%	4.0%	4.0%	0.0%	100%
合計	31 (名)	29 (名)	8 (名)	12 (名)	3 (名)	83 (名)
	37.3%	34.9%	9.6%	14.5%	3.6%	100%



問3. あなたは、同じ事業に参加した外国人の参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

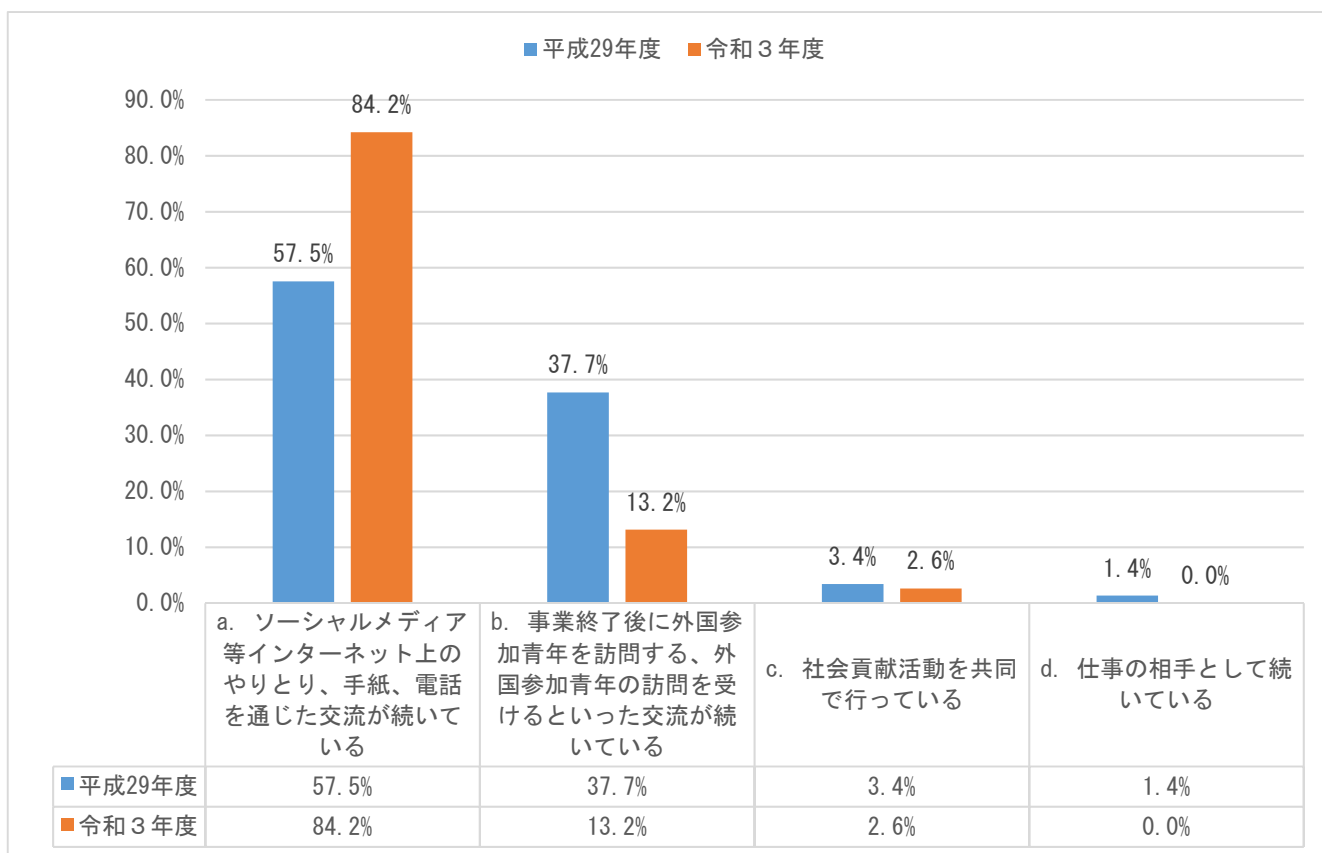
平成29年度	外国参加青年と交流が続いている	外国参加青年と交流は続いていない	合計
平成29年度	外国参加青年と交流が続いている	外国参加青年と交流は続いていない	合計
国際青年育成交流事業	7(名)	2(名)	9(名)
	77.8%	22.2%	100%
日本・中国青年親善交流事業	2(名)	2(名)	4(名)
	50.0%	50.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	3(名)	5(名)	8(名)
	37.5%	62.5%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	2(名)	4(名)	6(名)
	33.3%	66.7%	100%
「東南アジア青年の船」事業	23(名)	2(名)	25(名)
	92.0%	8.0%	100%
「世界青年の船」事業	49(名)	12(名)	61(名)
	80.3%	19.7%	100%
合計	86(名)	27(名)	113(名)
	76.1%	23.9%	100%
令和3年度	外国参加青年と交流が続いている	外国参加青年と交流は続いていない	合計
国際社会青年育成事業 (オンライン)	4(名)	14(名)	18(名)
	22.2%	77.8%	100%
日本・中国青年親善交流事業 (オンライン)	3(名)	14(名)	17(名)
	17.6%	82.4%	100%
日本・韓国青年親善交流事業 (オンライン)	6(名)	0(名)	6(名)
	100.0%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」青年会議 (オンライン)	10(名)	7(名)	17(名)
	58.8%	41.2%	100%
「世界青年の船」事業 (オンライン)	10(名)	15(名)	25(名)
	40.0%	60.0%	100%
合計	33(名)	50(名)	83(名)
	39.8%	60.2%	100%



問 3-1. 【外国人参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。（複数選択可）また、c. d を選んだ方は具体的な内容を記載してください。

平成29年度	a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている	b. 事業終了後に外国参加青年を訪問する、外国参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている	c. 社会貢献活動を共同で行っている	d. 仕事の相手として続いている	合計
国際青年育成交流事業	6 (名)	1 (名)	0 (名)	0 (名)	7 (名)
	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	-
日本・中国青年親善交流事業	2 (名)	1 (名)	0 (名)	0 (名)	3 (名)
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	-
日本・韓国青年親善交流事業	3 (名)	3 (名)	0 (名)	0 (名)	6 (名)
	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	-
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	2 (名)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	2 (名)
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-
「東南アジア青年の船」事業	23 (名)	16 (名)	4 (名)	1 (名)	44 (名)
	52.3%	36.4%	9.1%	2.3%	-
「世界青年の船」事業	48 (名)	34 (名)	1 (名)	1 (名)	84 (名)
	57.1%	40.5%	1.2%	1.2%	-
合計	84 (名)	55 (名)	5 (名)	2 (名)	146 (名)
	57.5%	37.7%	3.4%	1.4%	-

令和3年度	a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている	b. 事業終了後に外国参加青年を訪問する、外国参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている	c. 社会貢献活動を共同で行っている	d. 仕事の相手として続いている	合計
国際社会青年育成事業 (オンライン)	4(名) 100.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	4(名) -
日本・中国青年親善交流事業 (オンライン)	3(名) 100.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	3(名) -
日本・韓国青年親善交流事業 (オンライン)	6(名) 75.0%	2(名) 25.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	8(名) -
「東南アジア青年の船」青年会議 (オンライン)	10(名) 71.4%	3(名) 21.4%	1(名) 7.1%	0(名) 0.0%	14(名) -
「世界青年の船」事業 (オンライン)	9(名) 100.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	9(名) -
合計	32(名) 84.2%	5(名) 13.2%	1(名) 2.6%	0(名) 0.0%	38(名) -



【問 3-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください。

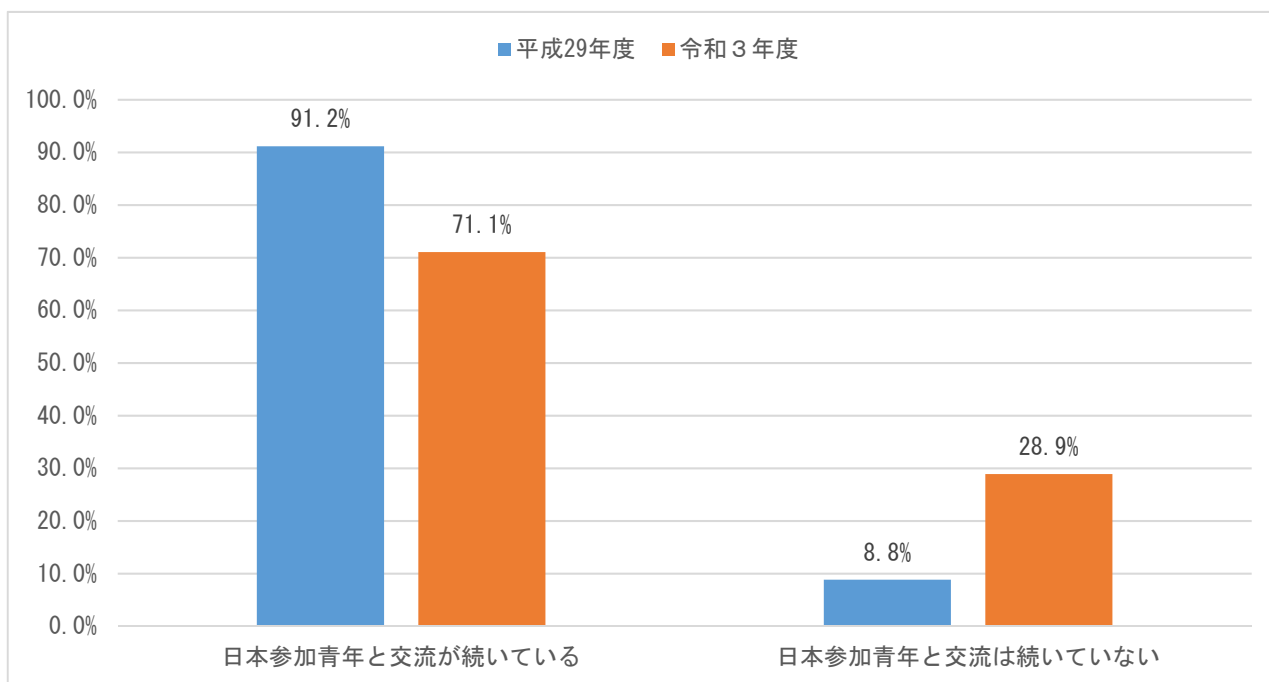
- ・ 長野県青年国際交流機構のマンスリーイベント English cafe を主催し、そのスピーカーとして SSEAYP の同期青年が登壇した。(複数回)
- ・ 令和3年度「東南アジア青年の船」青年会議(オンライン)終了直後に、日本全国の高校生・大学生及び社会人とで、「国際交流の機会の地域格差」(例:地方在住の人ほど外国人と関わる機会が少ない)の是正等を目的にした国際交流団体を立ち上げた。これまで様々なイベントを実施してきた。そのうち一つは、一般の高校生向けの東南アジア文化セミナーであり、複数名の東南アジア参加青年にゲストスピーカーとして協力してもらった。
- ・ プログラム参加後、参加青年と共に、日本/ミャンマー/インドネシア間の中高生間の文通を立ち上げた。
- ・ ミャンマーで軍事クーデターが起きた際にボランティア活動を一緒に行い、日本で古着と寄付を募り、ミャンマーに送付した。日本にいるミャンマー青年と共に寄付活動を行い、ミャンマーに留まっている青年に現地での受け取りに協力してもらった。
- ・ 定期的に日本での就職を希望する外国籍の人に向けてキャリアセミナーを開催している。こちらも SSEAYP の仲間と共同で運営している。
- ・ 同じプログラムで出会ったメキシコ人の代表青年と結婚しました。今現在、定期的にさまざまなボランティア活動や地域の活動へ2人で参加しています。

【問 3-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ。具体的な内容を記載してください。

- ・ 日本の学生向けの講演や研修などで講師やコラボレーターとして協力してもらっている

問 4. あなたは、同じ事業に参加した日本参加青年と現時点でも交流が続いていますか。

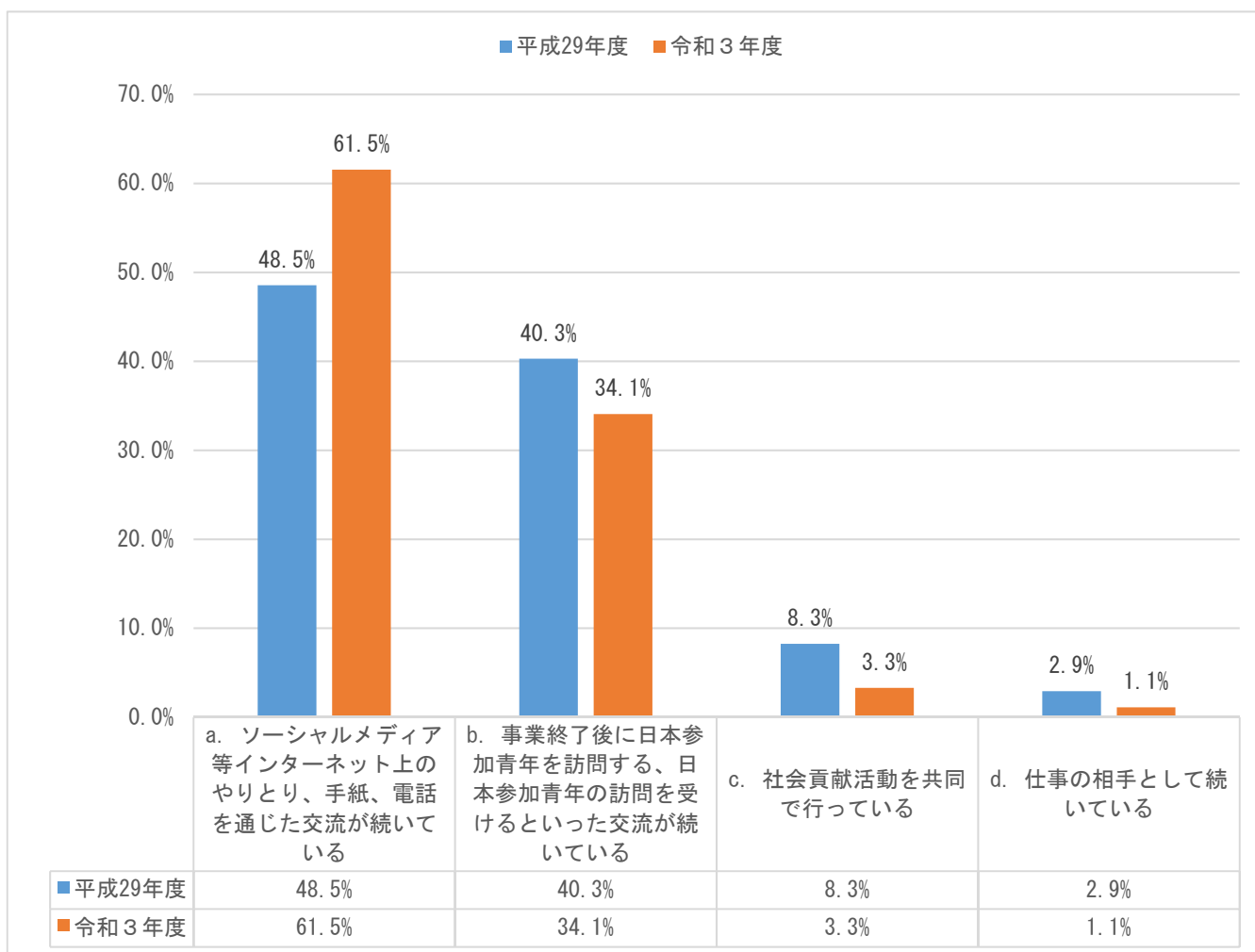
平成29年度	日本参加青年と 交流が続いている	日本参加青年と 交流は続いていない	合計
国際青年育成交流事業	9 (名)	0 (名)	9 (名)
	100.0%	0.0%	100%
日本・中国青年親善交流事業	3 (名)	1 (名)	4 (名)
	75.0%	25.0%	100%
日本・韓国青年親善交流事業	6 (名)	2 (名)	8 (名)
	75.0%	25.0%	100%
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	5 (名)	1 (名)	6 (名)
	83.3%	16.7%	100%
「東南アジア青年の船」事業	24 (名)	1 (名)	25 (名)
	96.0%	4.0%	100%
「世界青年の船」事業	56 (名)	5 (名)	61 (名)
	91.8%	8.2%	100%
合計	103 (名)	10 (名)	113 (名)
	91.2%	8.8%	100%
令和3年度	日本参加青年と 交流が続いている	日本参加青年と 交流は続いていない	合計
国際社会青年育成事業 (オンライン)	4 (名)	14 (名)	18 (名)
	22.2%	77.8%	100%
日本・中国青年親善交流事業 (オンライン)	11 (名)	6 (名)	17 (名)
	64.7%	35.3%	100%
日本・韓国青年親善交流事業 (オンライン)	6 (名)	0 (名)	6 (名)
	100.0%	0.0%	100%
「東南アジア青年の船」青年会議 (オンライン)	15 (名)	2 (名)	17 (名)
	88.2%	11.8%	100%
「世界青年の船」事業 (オンライン)	23 (名)	2 (名)	25 (名)
	92.0%	8.0%	100%
合計	59 (名)	24 (名)	83 (名)
	71.1%	28.9%	100%



問 4-1. 【日本参加青年と交流が続いている】と答えた方は、交流の内容について、以下から選択してください。（複数選択可）また、c. d を選んだ方は具体的な内容を記載してください。

平成29年度	a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている	b. 事業終了後に外国参加青年を訪問する、外国参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている	c. 社会貢献活動を共同で行っている	d. 仕事の相手として続いている	合計
国際青年育成交流事業	8 (名) 57.1%	5 (名) 35.7%	1 (名) 7.1%	0 (名) 0.0%	14 (名) -
日本・中国青年親善交流事業	3 (名) 50.0%	3 (名) 50.0%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	6 (名) -
日本・韓国青年親善交流事業	5 (名) 55.6%	4 (名) 44.4%	0 (名) 0.0%	0 (名) 0.0%	9 (名) -
地域課題対応人材育成事業 「地域コアリーダープログラム」	5 (名) 45.5%	3 (名) 27.3%	1 (名) 9.1%	2 (名) 18.2%	11 (名) -
「東南アジア青年の船」事業	24 (名) 48.0%	22 (名) 44.0%	3 (名) 6.0%	1 (名) 2.0%	50 (名) -
「世界青年の船」事業	55 (名) 47.4%	46 (名) 39.7%	12 (名) 10.3%	3 (名) 2.6%	116 (名) -
合計	100 (名) 48.5%	83 (名) 40.3%	17 (名) 8.3%	6 (名) 2.9%	206 (名) -

令和3年度	a. ソーシャルメディア等インターネット上のやりとり、手紙、電話を通じた交流が続いている	b. 事業終了後に外国参加青年を訪問する、外国参加青年の訪問を受けるといった交流が続いている	c. 社会貢献活動を共同で行っている	d. 仕事の相手として続いている	合計
国際社会青年育成事業 (オンライン)	4(名) 66.7%	2(名) 33.3%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	6(名) -
日本・中国青年親善交流事業 (オンライン)	11(名) 73.3%	4(名) 26.7%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	15(名) -
日本・韓国青年親善交流事業 (オンライン)	6(名) 60.0%	4(名) 40.0%	0(名) 0.0%	0(名) 0.0%	10(名) -
「東南アジア青年の船」青年会議 (オンライン)	14(名) 66.7%	5(名) 23.8%	1(名) 4.8%	1(名) 4.8%	21(名) -
「世界青年の船」事業 (オンライン)	21(名) 53.8%	16(名) 41.0%	2(名) 5.1%	0(名) 0.0%	39(名) -
合計	56(名) 61.5%	31(名) 34.1%	3(名) 3.3%	1(名) 1.1%	91(名) -



【問 4-1-c. 社会貢献活動を共同で行っている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

- ・ 若者の間で政治や社会課題の勉強会を共同で主催している
- ・ 講演でよんでもらったり、オンライン SNS などで情報交換をしている。
- ・ 長野県青年国際交流機構に同期の青年が在籍している。
- ・ 栃木県の助成を受けて、パスポート所持率最下位の栃木での海外に興味を持ってもらうイベント実施
- ・ IYEO パラスポーツ振興チームにて、主にパラ卓球協会の支援
- ・ IYEO×OYW グローカルリーダー創出プロジェクトにて、青年育成の支援
- ・ ボランティアベースで将来留学を考えている人に対してのキャリア相談などに乗っている。
- ・ 子ども・ユース向けのアートワークショップを日本やアフリカ、東南アジアで開催
- ・ 国際交流団体立ち上げ、過去の世界青年の船の参加者のほか、令和3年度「東南アジア青年の船」青年会議の複数名の日本人青年にも関わってもらった。イベントの際には通訳等として参加してもらっているほか、社会人アドバイザーとして必要な際に国際交流団体の学生メンバー（高校生・大学生）に指導をお願いしている。（例：マーケティング経験のある既参加青年が起業を考えている大学生メンバーに指導）
- ・ プログラム参加前から行っているボランティア活動に加わってくれたメンバーがいる。
- ・ IYEO の未来創造会議 2022 に所属し、キャリア教育活動や異文化共生のための活動と一緒にやっている。
- ・ 社会貢献活動ではないが、SWYOnline 参加者の中で有志で「自己内省のためのワークショップ」を毎月 1 回オンラインで実施しており、自分やお互いのキャリア形成につながっている。フィンランドのデジタルユースワークを学ぶために、フィンランドへのオンラインインタビューを行い、note を使って発信している。
- ・ 一緒にワークショップを行ったりしてる
- ・ ミャンマーへの支援活動とキャリア支援を日本人の参加青年とも共同で行っている。
- ・ ヨガ・街のごみ拾い
- ・ 毎回ではないですが、IYEO で一緒に活動することがある。
- ・ 街の掃除
- ・ 規模は小さいが、社会課題についてテーマを持ち寄ってお話をする場を作っている
- ・ 教育ワークショップなどを協働で実施するなどしている。
- ・ アート活動グループを結成。
- ・ プロッキング（ジョギングとゴミ拾いを同時にするアクティビティ）
- ・ 参加年度は異なる日本参加青年に声かけいただき、被災地の子どものための国際交流イベント（オンラインが主）の運営。来月からより本格的に関わる予定。
- ・ ウクライナ支援活動（短期キャンペーン）、海外参加青年の料理イベントなど。主に参加者としてだが、自主的に広報活動などを行った。
- ・ 受け入れ事業の企画を共同で立案、運営した。

【問 4-1-d. 仕事の相手として続いている】と回答された方のみ、具体的な内容を記載してください。

- ・ 研修事業や学生向けの講演依頼など、仕事上のパートナーとしてやり取りをしている
- ・ タイガーモブというインターンシップの会社でスワイヤーが働いている。一緒にスタディーツアーを実施予定。仕事のパートナーである。
- ・ 高校生向けの講演の依頼を日本人参加者よりもらい、実施しました。
- ・ 研修会等の講師
- ・ 講演でよんでもらったり、オンライン SNS などで情報交換をしている。